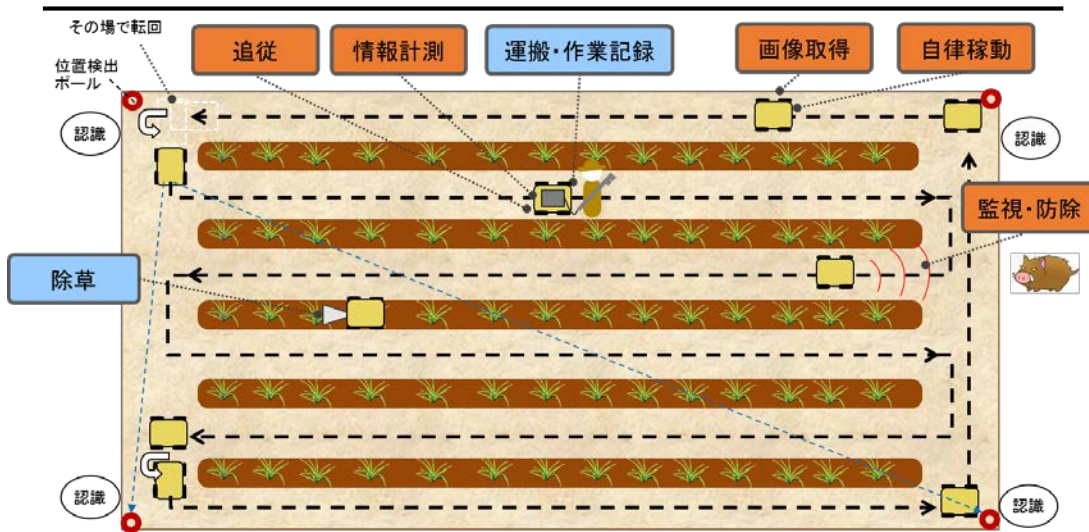


自律多機能型ロボットDONKEY(仮称)

会社名:株式会社日本総合研究所 創発戦略センター
 連絡先:03-6833-1511

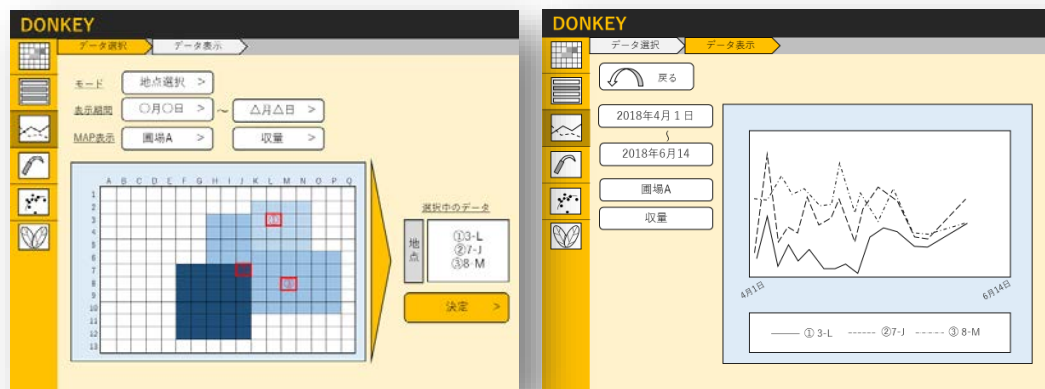
圃場での活用イメージ



概要

- 圃場の自律走行、農業者の自動追従機能を備え、用途に応じたアタッチメントを切り替えにより農作業の様々なシーンを支援。
 - ✓ 本体には基本機能として、自律稼働・自動追従、監視、画像取得、情報計測、通信機能などを標準装備。
 - ✓ 着脱式のアタッチメントを本体に追加することで、運搬・作業管理、防除・除草などの機能の拡張が可能。
- データ解析による栽培ノウハウ抽出・収穫予測や外部システム・データとの連携を通じて、農業の生産性改善、研究開発の促進、需給マッチング・調整、農業金融への情報インフラ提供など、新規ビジネスのためのプラットフォームとして機能。
 - ✓ 作業支援を通じて、株単位(1m×1m程度の小メッシュ)の農作業データ、農作物の状態、外部環境のデータを記録、見える化。
 - ✓ 作業履歴等の複雑な環境変化を捉えたダイナミック分析モデルの構築。

見える化アプリ イメージ



効果

- 【効率化を低コストで実現】**
 - 多様品目と作業に対応可能で、単機能型ロボットと比べ年間稼働率が向上。農産物当たりの機械コストの低減に貢献。
- 【改善による収益増大効果】**
 - 収量5%向上(注1)
 - A品率10%向上(注1)
- 【改善による経営費削減効果】**
 - 施肥量30%削減(注2)